

日本複合材料学会誌(邦文誌) 投稿規定 (2020. 4. 1 から)

以下は学術投稿記事である論文・技術資料に適用するが、編集委員会からの依頼記事である解説、展望、講座、書評、および学術投稿記事以外の投稿記事である紹介、新技術・新製品紹介にも適宜準用するものとする。

1. 分類

日本複合材料学会誌(邦文誌)に掲載する会員等による学術投稿記事は、研究論文、技術資料の2種類とする。いずれも、原則として図表を含め刷り上がり6ページ以内とする。なお、6,000文字と片段サイズの図表合わせて8点が刷り上がり6ページの目安である。

研究論文は、複合材料工学あるいはそれに関連する分野の研究の成果であり、次の条件を満たすかどうかで査読されるものとする。

1. 1) 独自の新しさがあること (独創性)
1. 2) 根本的な誤りがないこと (信頼性)
1. 3) 研究段階の区切と記述のまとまりがあること (完成度)

技術資料は、複合材料工学あるいはそれに関連する分野の研究の成果であり、次の条件を満たすかどうかで査読されるものとする。

1. 4) 独自の新しさがあること (独創性)
1. 5) 根本的な誤りがないこと (信頼性)

これ以外の依頼記事等については別表1によるものとする。

2. 投稿資格

著者の少なくとも一名は会員でなくてはならない。また、先頭著者は会員であることが望ましい。

3. 執筆要領遵守

原稿は執筆要領にそって書かれたものでなければならない。

4. 表題についての注意

ある研究対象について観点を変えた複数の論文を投稿する場合、表題には第1報…とせずに、内容を的確に表す副題を付ける等により処理すること。

5. 提出方法

原稿は、ワードプロセッサの原稿をPDFファイルに変換後、電子メールに添付して下記の提出先へ投稿するか、電子媒体を下記の提出先へ郵送するものとする。

受付年月日は、この提出先で受け付けられた日とする。また、以下の事項が記述された表紙を必ず先頭に置くものとする。

原稿種類、題目(含む英文)、著者氏名(含む英文)と会員資格、勤務先および職名(含む英文)、代表著者住所等の連絡先、使用ワープロソフト名(バージョン含む)、(希望する場合は)別刷り部数

6. 著者への照会等に対する処置

校閲者から著者に対する照会等で原稿が返送された場合、返送日から3か月以上何の応答も無く放置した時は、いったん投稿の意志を放棄したものとみなされる。従って、それ以降の論文の送付は新規投稿として処理される。

7. 抄録, キーワード

研究論文ならびに技術資料には英文の抄録および英文キーワードの添付を要する。

8. 著作権の帰属

邦文誌に掲載された記事，論文等の著作権は日本複合材料学会に帰属する。

8. 1) 著作者自身が自分の記事，論文等の全文または一部を複製，翻訳，翻案などの形で利用する場合，これに対して本会では原則的に妨げることはしない。
8. 2) 第三者から記事，論文等の複製あるいは転載に関する許諾の要請があり，本会において必要と認められた場合は，許諾することがある。

9. 二重投稿の禁止

研究論文及び技術資料の内容は，他の学協会誌またはこれに準じる刊行物（大学・研究所・会社等の出版物は含まれない）に発表されていないものに限る。

10. 記事についての最終責任

記事内容についての一切の責任は著者にある。

付 則

1. 原稿送付先

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル
一般財団法人学会誌刊行センター内 日本複合材料学会誌 編集部
TEL 03-3817-5821
FAX 03-3817-5830
E-mail: j_jscm-editor@capj.or.jp

2. 別 刷

希望する著者はその実費の全額を負担することで別刷りを購入できる。

3. 掲 載 料

掲載料は別表1によるものとする。

- ・カラー写真を掲載する場合には，その実費の全額を著者の負担とする。

4. 本規定は2020年4月1日から実施する。

別表1 邦文誌記事の分類と掲載料

分類	内容ないし評価基準	執筆資格	標準 頁数	掲載料
研究論文	複合材料工学に関連した分野の研究の成果であり、研究成果に独自の新鮮さがあること、内容に信頼性のあること、研究成果がある水準に達しており、記述のまとまりがあること。	連名者の少なくとも1名が会員	6	6万円(1頁超過ごとに+1万円)
技術資料	複合材料工学に関連した分野の研究の成果であり、研究成果に独自の新鮮さがあること、内容に信頼性のあること。	同上	6	6万円(1頁超過ごとに+1万円)
解説	複合材料工学に関連した分野の研究、技術の展望であること。あるいは新しい研究・技術の紹介や論評であること。一般の会員に理解できる程度に平易に書かれることが望ましい。	編集委員会から依頼された者	6	無料
展望	複合材料工学に関連した分野の研究、技術の動向を長期的・大局的に概観した論評記事であること。やはり、一般会員を対象に平易に書かれることが望ましい。	同上	6	無料
講座	複合材料工学に関連した専門分野の詳細な知識について、当該分野以外の会員、特に若年の会員を教育する意味を多く含んだ内容のものであること。	同上	6	無料
書評	複合材料工学に関連した新しい書物について、内容紹介、批評などを提示するもの。	同上	1	無料
紹介	複合材料工学に関連した国際会議の出席報告、留学先の紹介、視察した国情の紹介等、会員にとって有益と考えられる内容の記事。	会員	4	無料
新技術・新製品紹介	複合材料工学に関連した新しい設計、生産、加工、検査等の技術に関する紹介。および、新しい素材、装置、設備、ソフトウェア等の新製品に関する紹介。	会員	1	3万円

執 筆 要 領

- 以下の事項が記述された表紙を必ず先頭に置くものとする。

原稿種類、題目(含む英文)、著者氏名(含む英文)と会員資格、勤務先および職名(含む英文)、代表著者住所等の連絡先、使用ワープロソフト名(バージョン含む)、使用機種名、ディスク内文書ファイル名、(希望する場合は)別刷り部数
- 執筆にはワードプロセッサを用いるものとする。書式はA4用紙縦挿入、横書き、25字×24行(おおよそ25mmあたり4文字×75mmあたり8行程度)、余白は左右上下ともに30mmとする。または、本学会ホームページからダウンロードできるテンプレートに従って作成してもよい。
- 研究論文ならびに技術資料には英文アブストラクト(200語以内)および英文キーワード(5個以内)を添付する。
- 文字は原則として当用漢字および現代かなづかいを用いる。
- 書き出しおよび改行は1字下げる。
- 英文綴りは普通名詞は小文字で書き、固有名詞は初めの文字のみを大文字とし、他は小文字で書く。
- 一つの表は用紙1枚に記入すること。表中の縦線はできるだけ省く。
- 図はそのまま印刷できる鮮明なものを提出すること。
- 研究論文、技術資料においては図表の番号(Fig. 1, Table 1, ...)および図表題名、説明文ならびに記号は英語とする。ただし、この分類以外の記事においては、これらは和文とする。
- 図は原則として縮尺率1/2~1/4を取るものとし、これを調整することによって刷上がり幅が7.0cm(片段)または14.5cm(全段)に収まるように書くこと。
- 図表の題名をまとめたリストを添付すること。
- 参考文献は文中の必要な箇所の右肩に^{1), 2,3), 4~7)}……のように引用順に番号を付し、原稿末尾に文献をまとめて記載すること。
- 文献の記載法は以下による。なお、文献欄の著者名は、共著者はすべて列記し、邦人の場合はそれぞれ氏名とも記載すること。外国人は1st Nameの頭文字でよい。
 - 雑誌の場合 1) E. Reissner : J. Math. Phys., **31**, 4 (1956), 1-24.
(著者名) (略称誌名) (巻)(号)(年)(ページ)
 - 単行本の場合 2) S. Timoshenko : Theory of Elasticity (2nd Ed.),
(著者名) (書名) (版)
McGraw-Hill, New York (1955), p. 10.
(出版社) (出版地) (刊年)(ページ)
- 原稿は、ワードプロセッサの原稿をPDFファイルに変換後、電子メールに添付して下記の提出先へ投稿するか、電子媒体を下記の提出先へ郵送するものとする。

原稿送付先：〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

一般財団法人学会誌刊行センター内 日本複合材料学会誌 編集部

電話 (03)3817-5821 E-mail: j_jscm-editor@capj.or.jp